



2月



令和7年 1月31日  
横浜市立金沢小学校  
校長 保科 優子

## バトンパスのタイミング

教務主任 奥田 直子

学校の1年間は、4月に始まり3月に結びを迎えます。

2月は、これまでの活動を充実させるとともに、1年間で大きく振り返る時期でもあります。

本校職員も、この一年間を振り返り、令和7年度に向けて準備を進めています。

先日の職員研修では、横浜市生活・意識調査の結果や、子どもたちの普段の様子をもとに、「今の金沢小学校の子どもたちに身に付けさせたい力」について、職員同士で意見を交換しました。その中の一つに「主体性」という言葉が挙がりました。子どもたち自らが課題を見つけたり解決したりしていく姿や自分から挨拶する姿など、学習活動だけでなく、日々の生活の中でも期待したい力です。

後日、私は、「主体性を身に付けさせるために私たち教師ができることは何だろう」と考え、書店を巡りました。手にした本の中に「バトンパスのタイミングを見極める」とありました。この本では、「主体性」をバトンにたとえて表現されていました。「新しいクラスなど慣れない環境の中では、子どもはなかなか主体性を発揮しにくい。だから、初めから主体性というバトンを子どもに託すのではなく、まずは、教師がしっかりとした土台づくりをしていくこと。その上で、子どもが安心して主体性が発揮できるタイミングを見極めてバトンを渡すことが大切である」という内容のことが書かれていました。

この本との出会いから教師としてできることは、子どもが安心して活動や学習に取り組めるよう学習の場を設定したり、行動を起こした友達に「ナイスチャレンジ!」という雰囲気づくりをしていったりすることが、第一歩であり重要であることを改めて感じました。同時に、主体性を育むためには、保護者の方々と協力して取り組むことがとても大切であるとも感じました。

金沢小学校の学校教育目標は、「創り出せ Tomorrow わたしは Challenger」です。この目標をもとに、子どもたちは学習をはじめ、係活動、クラブ活動、委員会活動等、様々なことに取り組んでいきます。ご家庭でも、結果だけに目を向けるのではなく、そこに至るまでの努力や工夫をしっかりと認めていただきたいと思います。また、チャレンジしている途中、子どもたちは、戸惑ったり悩んだりすることがあるかもしれません。そのようなときは、何に困っているのか、どのような手助けを求めているのかということに耳を傾け、最後までやり遂げられるよう温かな支援を一緒にしていきましょう。

学校や、地域の方々を含むご家庭の皆さんと一緒に、子どもたちへ「主体性」というバトンを渡していけたら幸いです。

これからも、本校の活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。